
幹事会だより No. 2

平成17年12月27日発行
副会長(科学者コミュニティー担当)
浅島 誠

年の瀬のあわただしい時節となりました。今回は、12月22日(木)に開かれた第6回幹事会について御報告します。

今回の幹事会は、会議の間に松田科学技術政策担当大臣との意見交換及び企画委員会を開催した関係で、3回に分けて行われました。

第6回 (12月22日12時30分~12時55分)

- 1 まず、大垣副会長から、11月17日(木)に開催された科学と社会委員会についての報告がありました。
- 2 次に、非公開審議事項として、人事関連の審議が行われました。
 - (1) 京都大学原子炉実験所から推薦の依頼がありました当該実験所運営委員会委員について、第3部での審議を踏まえ候補者を推薦することとなりました。
 - (2) 前回の幹事会で設置された課題別委員会「学術とジェンダー委員会」の委員7名が決定されました。また、第1部に追加として2名推薦を依頼することが決まりました。
 - (3) 分野別委員会のうち、数学委員会に所属する委員2名の追加が決定されました。
 - (4) 国際委員会に設置された「日本 カナダ女性研究者交流分科会」の委員4名が決定されました。
- 3 次に、前回幹事会以降の諸報告が行われました。その中で、12月12日付けで、本庶 佑第2部会員が日本学士院会員になられたとの報告がありました。おめでとうございます。

松田大臣との懇談（12時55分～14時40分）

松田岩夫科学技術政策担当大臣は13時前にお越しになり、幹事会メンバーと1時間45分にわたり懇談されました。日本学術会議の56年の歴史の中でも、大臣とこれだけ長い時間、意見交換を行ったことは稀有なことです。お話の端々から、日本学術会議について、真剣にお考えいただいていることが感じられ、私たちもそれに応えなければという気持ちを新たにさせられました。松田大臣は、冒頭、こういう機会を早く持ちたかったとおっしゃられましたが、是非、総会にもお越しいただき、全会員ともお話ししたいと思っております。

当日の大臣のお話の概要は以下のとおりです。

1 政策提言について

日本は、人類の直面する課題の多くを自ら抱える国であり、日本の今後を考えると、政策提言が今ほど求められている時はない。学術は全て、少なくとも、これまでの知見を基に、人間を幸せにしようとしているはず。日本学術会議は、学術を極めている人が集まっており、しかも国家機関である。本当に必要な政策は何であるか、あらゆる学術の英知を結集して、日本を考える、そういうふうになっていかないものか。

2 国民の学術への理解増進について

一方で、学術離れ、知恵をないがしろにする傾向が世の中に強まっている。他へ提言するだけでなく、日本学術会議自身の役割として、学問の喜びを国民に共有させる運動を起こせないものか。私も出来る限りのことをしたい。学術を、長期的、計画的に、夢のある、心躍るものにしなければならぬが、そういうことをするのは、何度考えてもやはり、日本学術会議だろうと思う。学術を愛する、いい意味での国民運動の中心になっていただきたい。

3 日本学術会議の今後の活動について

日本学術会議が5年後に見違えるように変わるかどうかで、日本は変わる。少子化、学力低下などについても、学術の英知を結集して、実戦に役立つ提言を出しただけならば、私はそれについて閣議で発言し、内閣の政策に役立てたい。総合科学技術会議を使って予算の弾力的運用もできる。日本学術会議が、持てる力を、どう、フルに使って政策提言に参画していくのか、という視点で、具体的に動けるところから動いていただきたい。私の力も使って、思い切り、フルにやっていただきたい。

また、アジアや世界の人々と一緒にやっていくことも、日本の役割として、大事だ。日本学術会議らしい国際活動について、私も理解したいし、お手伝いもしたい。

(14時40分～16時)

1 松田大臣が退席された後、審議が再開されました。

(1) 日本学術会議が主催する地域振興フォーラム実施要綱及び中部地区フォーラム開催(平成18年3月3日金沢大学)についての提案があり、了承されました。このフォーラムは、日本学術会議会員が中心となり、各地域の大学、地方公共団体、経済団体などの関係者が一堂に会し、地域が直面する重要かつ具体的な課題を科学技術の観点から分析し、検討することを通じて、効果的 効率的な地域の人的ネットワーク及び共同研究体制の形成を実現することを目的として開催しているものです。

なお、中部地区フォーラムでは、黒川会長及び後藤中部地区代表幹事(第3部会員)の開会あいさつ、林金沢大学長(第3部会員)の講演などが行われる予定になっています。御都合のつく方は、是非御参加をいただきたく、よろしく申し上げます。

(2) 次に、新たな課題別委員会「政府統計の作成 公開方策に関する委員会」の設置及び設置要綱の提案があり、審議の結果、了承されました。この委員会は、公共財である政府統計一次データの一元的管理とその公開利用のための法制度、組織体制整備について調査審議するため、平成18年6月30日まで置かれるものです。

また、同委員会の委員候補者10名も決定されました。

2 次に、西ヶ廣事務局長から、総合科学技術会議の報告があり、今後5か年間の政府研究開発投資の総額の規模を約25兆円とすること、第3期科学技術基本計画については年度内に閣議決定することなどの説明がありました。

(17時5分～21時)

1 企画委員会終了後、再開され、残された審議事項についての審議が行われました。

(1) まず、新たな課題別委員会「学術 芸術資料保全体制検討委員会」の設置及び設置要綱の提案があり、審議の結果、了承されました。この委員会は、効率化優先政策導入が我が国の学術 芸術資料の管理制度に及ぼす影響を調査し、長期的視点に立った文化政策について審議するため、平成18年12月31日まで置かれるものです。

(2) 次に、直前に行われた企画委員会での検討を踏まえて第147回臨時総会の日程について提案があり、審議の結果、了承されました。

臨時総会は、平成18年2月13日(月)10時から、日本学術会議講堂で開催します。総会のほか、部会、各種委員会等も開催される予定です。詳細については、改めて開催通知で御案内いたしますので、御出席方よろしく願います。

2 その他の事項として、第三期科学技術基本計画の策定に向けた会長談話が発表され、安倍官房長官、谷垣財務大臣に対して手交されたことの報告が黒川会長から、平成17年度日本学術会議主催公開講演会(第3回)の企画案について、浅島副会長から説明がありました。また、平成18年度日本学術会議予算について、全体で13億1900万円(対前年度比94.2%)の当初内示があったことが管理課長から報告されました。

3 最後に、食事を交えて自由討論が行われました。

最初に、黒川会長から、日本学術会議を取り巻く環境と新ビジョンの必要性などについて、配布資料に基づいた説明があり、この問題についての意見が交わされました。

また、大垣副会長から、現在の日本学術会議の活動状況等について問題提起がなされ、意見が交わされました。

さらに、連携会員について、一般の連携会員と臨時の連携会員との差異、会員候補者の推薦権を臨時の連携会員が持たないことの是非、連携会員でない委員の発令、現在の選考委員会の経過報告については正式な議事要旨の決定を待つて行うこと等について幅広い議論が交わされ、21時に閉会されました。

(完)